

## 教育委員会における自己点検及び評価（内部評価）

### 1. 内部評価結果（総括）

各教育委員は、現場主義の考え方に立つとともに、平成19年度の活動の反省から、活動種別を明確にしたこと、議論が深まるよう重要な案件については、資料の事前送付を求めたこと、議事録をホームページに掲載したことなど、一定の改善を行い、概ねその職責を果たした。

しかしながら、定例教育委員会に傍聴者がなかったこと、首長との意見交換を行わなかったことなど、反省すべき点もあったことから、次年度に向けて、一層の改善を目指すものとする。

### 2. 評価シート①：「教育委員会の活動状況」

#### 【内部評価結果】

- ・ 教育委員会の構成については適正である。
- ・ 行事等への参加回数については、昨年度と比較して大幅な増となった。また、参加する行事に、出席努力、自主判断の区分を自ら設け、従来、あいまいであった部分を明確化した。これにより、今後、教育委員の活動として、関与の妥当性を客観的に示すことにつながっている。
- ・ 教育委員会会議については、開催回数、出席の状況とも問題ないものとする。また、開催における運営上の工夫として、特に重要な案件については、資料の事前送付を事務局に促すなど、会議での協議がより深まる努力を行った。  
また、会議の公表については、定例教育委員会での議事録をホームページに掲載する等、昨年度から一定の改善が行われているが、傍聴者がなかったことから、今後、会議の開催日程についての事前の周知方法を検討する必要がある。
- ・ 学校訪問については、教育委員の活動の中での「出席努力」と明確に位置付けたことに伴い、昨年度と比較して出席率が大幅に上昇したことから、一定の改善が図られたといえる。
- ・ 平成20年度は首長との意見交換を行うことができなかった。このことは、反省点として挙げられる。

### 3. 評価シート②：「教育委員会が管理・執行する事務」の内部評価（案）

- ・ 今年度は、「教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を定めること」を検討した議案が増となっている。  
これは、特に「佐世保市教育振興基本計画」策定にあたり、その検討を全て協議事項としたことに起因しているが、より議論が深まるよう、事務局に全ての資料を事前送付するよう依頼し、短時間の会議でも、十分な議論が行われた。
- ・ 「教育委員会の権限に属する事務についての点検及び評価に関すること」の検討件数が増となった。これは、従来、決算議案を審議することのみが点検及び評価と位置づけていたものであるが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正に伴う、本評価を行うようになったためである。  
今後の教育行政を検討していくにあたり、市民の視点からの See（振り返り）を重点的に行うことで、よりよい展開を築くことができるのではないかと考えている。

### 4. 評価シート③：「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について 別紙のとおり